

しまだいい便り

大学の旬な情報をお届け

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

1 若者と地域の未来を創るリアルな出会い しまね大交流会2022を開催



11月6日、松江市のくにびきメッセにおいて、「しまね大交流会2022」を開催しました。「しまね大交流会」は、学生、生徒と企業、自治体、教育機関等との交流の場として、2015年から毎年開催しており、今回は3年ぶりに全対面形式で行いました。

当日は山陰両県の企業・団体・大学・高専の120ブースが出展。約1000名の若者を含む約1400名が来場し、対面開催ならではの発見や思いがけない出会いを体験しました。参加した学生からは、「島根県で働くことの良さや支援制度を知ることができ、島根県での就職に関心が持てた」、出展者からは、「これだけの学生が集まるイベントは貴重なのでぜひ今後も継続してほしい」などの声がありました。「若者」と「大人」が一堂に会する本交流会が、キャリア教育イベントとして、地域の未来を担う「若者」の成長の場になっていくことが期待されます。

4 日本の失明原因第一位・緑内障治療への貢献に期待 世界初「グリーンレーザーECP治療」を開始



レーザー凝固されて白くなった毛様体

医学部眼科学講座・谷戸正樹教授のグループは、ファイバートック社と共同で開発し承認されたデバイスを用いて、新しい眼圧下降治療「グリーンレーザーECP」を開始しました。ECP専用装置の承認は国内初、グリーンレーザーを用いたECP装置は世界初です。本手術は、従来の緑内障治療で十分に効果が得られなかった難治緑内障を対象に行う治療です。緑内障は、眼圧を低く保つことで進行が遅くなるという特徴があります。眼圧下降治療の中で、約10年前に登場したチューブシャント手術が最も効果が高い治療として行われています。しかし、少数ですが、チューブシャント手術でも眼圧が十分下降しない、あるいは、手術を行うことができない難治症例が存在します。谷戸教授のグループは、ファイバートック社と共同で、2014年から内視鏡的毛様体光凝固術(ECP)装置の開発を行ってきました。ECPは、チューブシャント手術無効例でも眼圧下降が期待できる術式として期待されます。2022年7月からこれまで治療を行った6症例は、いずれも順調に経過しています。本手術が、わが国の失明原因第一位の緑内障治療に貢献することが期待されます。

2 空き家を活用しシェアハウスとして再生 「とびっこハウス」がダブル受賞



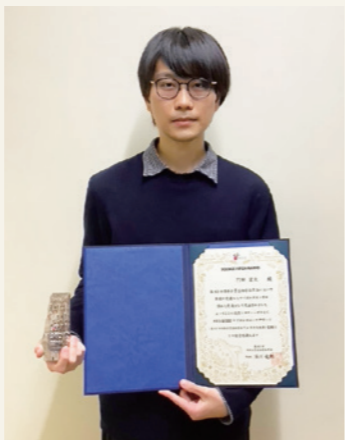
総合理工学部建築デザイン学科の建築計画研究室を中心とする学生・教職員が整備に協力し、2022年2月に竣工した「とびっこハウス」が、「ウッドデザイン賞2022(ソーシャルデザイン部門)」と「令和4年しまね建築・住宅コンクール優秀賞(活動部門)」をダブル受賞しました。「とびっこハウス」は、出雲市にある木造2階建ての空き家を、地域・行政と協働して改修し、学生のシェアハウスとして再生したものです。

3 676件のポスター発表から選出 大学院生のRaj Deepさんが受賞



自然科学研究科(博士後期課程)当時1年のRaj Deepさんが、昨年9月20〜23日に東北大学川内北キャンパスで開催された第83回応用物理学会秋季学術講演会で研究発表を行い、Poster Awardを受賞しました。次世代の発光ダイオード(LED)として期待される酸化亜鉛(ZnO)のナノ粒子を塗布して作製した紫外線LEDと蛍光体を用い、太陽光に近い演色性の優れた白色LEDの特性について発表しました。

5 植物ホルモンの新たな生理機能を解明 大学院生の門田さんが2つの賞を受賞



自然科学研究科(博士前期課程)当時2年の門田宏太さんが2つの賞を受賞しました。2022年11月から12月に行われた第45回日本分子生物学会年会では「MBSJ2022 Science Pitch Award(優秀発表賞)」を、同年12月に行われた植物の栄養研究会第7回研究交流会では「最優秀ポスター賞」を受賞しました。門田さんは、接ぎ木技術と栄養操作を駆使することにより、イソペンテニルアデニン型サイトカイニンが、植物の成長と免疫応答の調節に寄与することを明らかにしました。

6 最新の研究成果をもとに歴史を紐解く 「古代出雲文化フォーラムX」を開催



3月4日、大阪市で「古代出雲文化フォーラムX」を開催しました。「古代出雲」と相撲・埴輪・儀礼をテーマに、古代出雲の古墳祭祀、それにまつわる相撲や儀礼の歴史について、相撲の開祖とされる野見宿禰の伝承にも触れながら、講演が行われました。続いて、本学総合博物館に残る貴重な標本類等の紹介や、古代から島根に息づく材料製造技術に関連して4月新設の「材料エネルギー学部」が紹介されました。4年ぶりに対面での開催となり、大盛況のうちに幕を閉じました。

読者の声

広報しまだいいvol.53に寄せられた声をお届けします。

減塩システムが生活レベルで広まると良いなと思いました。

(島根県松江市・50代女性)

身近な大学の色々な活動をとっても楽しみに読ませていただいています。

(島根県隠岐郡・60代女性)

毎回見るたびに素晴らしいです！特に卒業生の皆さんが頑張っていますね。

(島根県松江市・60代女性)

教育現場の問題もぜひ取り上げてほしいです。

(島根県松江市・70代男性)

島根の観光資源を生かした特色ある教育をこれからもよろしく願います。

(島根県松江市・70代男性)